

かたの



R4. 11. 22
形埜小学校
校長室だより



しびれました…超越「負けるもんか！」

◆デッドヒートの場面を何度も目にしました。これは本番に限らず、練習もそうでした。本番でも同タイムの「1位・2位」という結果が2学年ありました。◆教室に掲示されていた思い出カードにこんなことが書かれていました。「(前略)1年生の時から目標だった〇さんに勝ててうれしかったです。一緒に走っていると、すごく楽しく感じました。上り坂で、抜かれないようにがんばったのが、ひびいた(効いた)のかなと思います。最後まで負けないようにスピードを上げました。(後略)」

◆素敵だなと思ったのは、「一緒に走っていると楽しく感じた」という感覚です。自分を高めてくれる仲間との熱い走り、苦しさを越えて、「楽しさ」を感じるというのですから…。

◆思い出カードのイラスト欄には、右のように赤とオレンジのナンキンハゼをバックにメダルを首にした凛々しい表情をした



姿が描かれていました。形埜の美しい運動場とともに今年のロードレースは忘れないシーンになることでしょう。

◆□年生のスピードレースは圧巻でした。出だしからほぼダッシュ、それが最後まで続くという展開。勝負後の会話にもしびれました。～「来年は、〇君に勝つぞ！」に対し、その言葉を聞いていた〇君、「いや、負けん！」と即返していました。

◆多くの子が、自分と同じくらいの子をライバルにして、いろいろな作戦を立てて走っていたようです。こんな会話もありました。「僕、作戦成功したんだよ。僕のライバルは□ちゃん。今年こそ抜こうと思っていた。最初は、□ちゃんの警戒心をとくために、行きは後ろにゆっくりついていく、ここでは力をためておいて、最後の300で一気に抜き去る。練習の時も□ちゃんのペースを知るためにいろいろ考えて走ってたんだよ」とのこと。なんと、心理作戦を計画していた強者です。その言葉を直接聞いていた□さんは「エ～ッ、悔しい！来年は負けられないからね！」と負けられない宣言をしていました。◆また、こんなこだわりをもって走っている子もいました。「最終的に1位になるのは、だいぶ難しそう。でも、最初の300Mは、1位で走る！～確かにラストは苦しそうでしたが、練習も楽しそうだったし、そのこだわりのおかげで、タイムは日々アップしていました。

来年に向けて、「負けるもんか！」は既に始動？！

【表彰】

1位  2位

1年
2年
3年
4年
5年
6年
6年3位

(*6年生は上位4名)



たくさんの応援に力増！
桜形バス停折返し地点にもいっぱい！



選手宣誓かっよかった～！
今年は、当日に金メダル授与です。



保護者の皆様へ

たくさんの声援、本当にありがとうございました。お子様に限らず、全ての子どもへの名前を呼んでの応援は、「形埜だからこそ」の素敵なお光景だと毎年、胸を熱くさせられます。コースが変わった今年、子どもたちが応援の声を耳にするポイントも増えました。やはり、応援の声を耳にすると、力が湧いてくるようで、スピードが上がります。おかげで、子どもたちは、笑顔で幕を閉じることができました。感謝申し上げます。

総務部・実践部の皆様へ

寒い中、各ポイントでの交通指導と見守りをありがとうございました。おかげで、無事に大会を終えることができました。また、子どもへのお声かけもいただき、大きな力となったことと思います。感謝申し上げます。



《創立150周年記念事業について》

記念 T シャツ購入につきまして、ご心配をおかけしました。丁寧な説明と皆様のご理解ご協力のための手順等を今一度見直し、今後の事業を進めて参りたいと思います。直接、お話しする機会がなかなかもたせませんので、本通信「かたの」にて、事業の進行状況やアイデア募集等、折に触れてお知らせして参ります。お気づきの点がありましたら、遠慮なくご意見ください。（* 近日中にアンケートを配布し、ご意見をいただく機会を設けます）

今回は、本紙面において「150周年記念事業についての考え」をお伝えさせていただきます。

学制150周年を迎える本年度を境に多くの小学校が記念事業を進めています。本校は、令和5年度が記念の年となります。来年度を迎えるに当たり、これまでの資料を紐解きながら、どのような形で進めることがよいのかを実行委員の皆様と共に考えて参りました。140周年記念事業の資料に下記の文章を見つけ、深く共感いたしました。

記念事業
位置付け

- ・形埜小学校の歩みを振り返り、母校・地域を愛する心を育む。
- ・地域の方々とともに資料収集・準備活動等の過程を通して、地域との絆をより深める。
- ・形埜の未来をイメージする機会とし、大きな夢を育む。

小学校としましては、上記と同様の考えを実現するために、この記念すべき年を「形埜の魅力再発見」をキーワードに、「子どもの学び」に関連付けながら進めたいと考えました。（この考えをもとに、「木の芽学習」（総合的な学習）を軸に、「形埜の宝や形埜を守る人」に触れる機会を積極的に設定しています）

子どもたちにとって、今は、ピンとこないこともあるかもしれませんが、10年後・20年後・50年後、「小学校の150周年では、地域に皆さんと共にこんなことをやったな。こんなことを教えてもらったな。本当に楽しかったな。形埜の大人はすごいな！ 自分も未来は…」と、一生語れる&忘れられない思い出ができればな」と願っています。

